

No	意見等の概要	回答
1	基本方針が具体的にどのようなものなのか分かりません。今までのけやき通りがスッキリと綺麗に維持されるので有ればそれでいいと思います。	けやき通りグランドデザインは、清瀬市のシンボルロードであるけやき通りの機能向上と、将来にわたり景観の維持向上を図ることを目的としております。今後はグランドデザインを基にけやき通りの管理について検討を進めてまいります。
2	第6章 区間①「エントランスゾーン」P57~P61 区間①エントランスゾーンに花だけではなく街路樹の復活を！ 北口駅前ロータリーの街路樹(ケヤキ)4本は「清瀬市公共施設のみどりの管理方針」で本数整理の方針に基づき伐採されました。最近ではムクドリへの対策で、けやき通りの清瀬駅北口前から消費生活センターがある交差点までのケヤキ16本が伐採されました。地球温暖化が進み、夏の気温上昇が続く中、街路樹は歩行者へ降り注ぐ日差しを和らげてくれる他、方位や周辺環境によっては、隣接する店舗などにとっても直射日光を防いでくれるありがたい存在のはずです。一方、ケヤキは成長が早く、大きくなると倒木や枯れの危険、歩行者や運転者への交通障害、街路樹に面した店舗などにとっては大量に発生する落葉の問題も大きい。 区間④交流ゾーンには一部「ハナミズキ」が採用されています。「ハナミズキ」は成長が遅く管理がしやすい、また花もきれいであることから街路樹として採用されることが多くなってきました。ケヤキのように大量の葉っぱを落とすことはありません。清瀬市の玄関口として、市民に限らず訪れる人々が素晴らしい景観だと思える風景を創り出すために、清瀬駅北口に適した新しい樹種を選定して、「これを楽しみたい、大事にしたい」という意思を関係者と共有し、デメリットも把握した上で、合意形成を図り、街路樹を復活させてはどうでしょう 清瀬市都市計画マスタープランでも「清瀬駅北口については、駅前のみどりの空間を保全しつつ、地区計画を運用しながら市の玄関口にふさわしいまち並みの形成を図ります」となっています。	・区間①エントランスゾーンにおいては、いただいたご意見を参考とさせていただきます、市の関連計画との整合性を図りつつ、けやき通りを利用する方々の安全性・利便性を考慮したうえで検討してまいります。
3	目的について 第一に挙げるのは、やはり美しくかつ歩きやすい並木道ではないでしょうか。→私案「緑豊かな街清瀬」のシンボルロードとして健全な緑化と整備を進め、清瀬の景観の維持・向上を図る。	けやき通りのあり方や維持管理において、貴重なご意見として参考とさせていただきます。
4	現状について 清瀬市の緑の基本計画にてらし、樹木の管理状態はどうだったのでしょうか。萌芽更新が書かれていたと思いますが、実行されてきたのでしょうか。たから幼稚園近くでは深く伐採されて、そのまま枯れたようになっている部分がたくさんあります。また、多くの木は、通行の妨げにならないよう毎年たくさんの枝を落としていただいています。樹形を保ち、緑を絶やさない維持管理について、どう進めていけばよいのか専門家のアドバイスも受けて計画していく必要はないでしょうか。ムクドリ対策も必要です。並木以外のものとしては、歩道との境の植え込み、彫刻群、ベンチ、足裏指圧スポットなどがあります。廃止するもの、維持管理していくものなどあると思いますが、植え込みなど市民と協働できることもあるのではないかと思います。	「けやき通りグランドデザイン」においては、街路樹の管理方針として「既存樹木の保全」「樹木の再整備」「日常の維持管理」の3つ区分を設定しております。また、「けやき通りグランドデザイン」における街路樹や沿道施設に関する内容につきましては、専門家のアドバイス等をふまえ作成しております。
5	市民意識について 市民祭りでの調査とのことでした。連続したケヤキ並木の風景は第一位。同感です。一方やってみたいことというのは既成のものへの評価というより個人の思い付きの側面が大きいのかもしれませんが、清瀬にあったらいいなという希望ととらえて、それらへのすてきなエントランスとしての並木道という機能を持たせたいと思いました。	今後のけやき通りに必要な機能につきましては、貴重なご意見として参考とさせていただきます。
6	課題について ・いろいろな課題があげられています。4点のうち3番以外は美しい緑の並木道を作っていくための維持管理があげられています。道路としての機能を損なわず、美しい景観を維持することは並大抵ではないことと思います。3番については通りたくなるほどの景観ということと、他の施設への導入路ということで、市民意識を尊重したものと受け取りました。 ・ここで意見を述べたいことは今回の「グランドデザイン」を上梓した後、どう具体化しどう継続していくかを明確にしていいただきたいということです。一時的に木を植えて終わり!というわけにはいきません。生物である樹木とその周辺の生物多様性を保全するということは継続できるようなシステムとして専門家のアドバイスや、公園課などの他部局との協力協働、そして予算が必要ではないでしょうか。今回のグランドデザインは清瀬の「緑の基本計画」をベースにしておられると推測しています。この計画は素晴らしいと思いますが、計画に立ち返って活動を振り返るとか、計画をアップデートするなどしてきたのか不明です。 ・今回のけやき通りのグランドデザインを機に、「実施計画・内容そして経過を市民に知らせ、協力も求めて進めていく」ことを課題として加えていただきたいと思います。	今回の計画では、パブリックコメントを通じて広く市民の皆様へ情報提供とご意見をお伺いしております。課題につきましては、貴重なご意見として参考とさせていただきます。
7	「全体コンセプト・基本方針・区間別方針」 「各区間の連携方策」について ・上記の2つは、示されたゾーニングが具体的にどこかがわかりませんでした。略図で示していただけると分かりやすいと思います。意見としては、 ①できるだけシンプルな計画の方が維持管理しやすいのではないかと思います。 ②駅前の計画は清瀬市の顔として、他部局とだけでなく市民にも提案して進めていただきたい。ムクドリ対策も合わせて検討していく。	駅前も含めて、けやき通りの今後につきましては、貴重なご意見として参考とさせていただきます。
8	けやき通り全体を横断する機能について(P39) その通りだと思いますが、これらは課題と合わせてはいかがでしょうか。 →「4、けやき通り全体を横断する機能と課題」として課題の前提として掲げたらいかがでしょうか。	「けやき通り全体を横断する機能」につきましては、市の関連計画におけるけやき通りの位置付けや、現在の課題をふまえて設定しております。
9	樹木管理方針について 「各区間の連携方策」とダブルしますが、できるだけシンプルにした方が良く考えます。伸長の具合や樹形の個体差もあります。また15年ほどでの萌芽更新を計画的に行うなどのやり方もあるようです。適したやり方を継続的に行うことが望まれます。	けやき通りの街路樹管理につきましては、各個体の状態や歩道幅員、植栽樹の寸法等、植栽条件・環境をふまえ検討してまいります。
10	推進体制、進行、管理 について とても大事だと考えます。 関係部局が連携して進めることは定期的にミーティングして進行状況を確認していくことになると思います。これは「緑の街清瀬」の推進力にしていけるものだからです。計画→実行→評価→改善(計画)という循環で行い、市民にも是非知らせていただきたいし、意見や協力も折々に求めていただきたいと思います。まずは、はじめの計画をお知らせいただくのを楽しみにしています。	「けやき通りグランドデザイン」の実現に向け、貴重なご意見として参考とさせていただきます。
11	道路は市民の大切な財産という側面から始まり、緑や環境の保全、防災機能、憩いと文化の創造など多岐にわたる機能を持っています。長年にわたる管理と保全は、十分な計画と協力、予算がなければできないと思います。みどりの街清瀬を名実ともに実現していくための緑化推進事業として是非、十分な予算化をしていただきたいと思います。もう一つ、緑化の重要性や維持管理の必要性について折々に市民にアピールし、参加や協力を求めていただきたいと思います。	今後のけやき通りのあり方につきましては、貴重なご意見として参考とさせていただきます。

12	新道を造るのも大事なのでしょうが、せっかく大きくなった樹木を簡単に伐採していくのもどうかと思います。けやき通りを歩く方は「夏場は日陰が無くなって駅まで歩くのがキツイ」と仰っている方もいます。樹木を維持管理するための予算確保も大変だと思いますが、新しくされる中央公園に列車を2両も並べる予算があるなら、樹木を守るためにできる事もあるはずです。無間矢鱈と樹木を切るような事はしないで下さい。何卒よろしくお願いいたします。	今後の街路樹管理に向けて、貴重なご意見として参考とさせていただきます。けやき通りの既存樹木については、「けやき通りグラウンドデザイン」の街路樹管理方針を基に、各個体の状態や植栽条件・環境をよく把握した上で、管理を進めてまいります。
13	清瀬らしさの緑をテーマにした、駅前とロードについてコメントします。 けやき通りの起点を駅前からと現実理解すると、駅広を除いたデザインは片手落ちと私は思う。なぜなら通りが生活と楽しむ機能向上を図るベースに、「もの」と「ところ」の視点からも捉えて、将来の駅広とロードの結びつきを図る。 1. 駅広を将来は進入禁止とし、緑林として憩いの場とする。（現立体橋は撤去） 2. ターミナル機能は市民ホール解体と農協敷地を活用して、1皆に整備する。 3. 2皆にホールと店舗を併設し収入源とする。 4. ロードのケヤキは順次若木にかえる。 5. ロードの自転車の通行帯をカラーで表示安全を確保。 6. ロードの自動車の速度は30kmにおさえる。	駅前広場の今後の検討につきましては、別に検討を進めていく予定としております。いただいたご意見につきましては、その検討の際に参考とさせていただきます。
14	P32 課題3 けやき通りのシンボルの機能の向上 オープンカフェについて、市民が利用し、公有地の利用許可で市側に利用料が入り事業者も儲かってと3方得になれば良いが、需要・経営が成立するのか疑問。補助金なしの事業者責任で行われるのであればよいが、一事業者に補助金を投入して運営維持は適切でないと考える。カフェ営業等よりは夏場の散歩ウオーキング中に水を飲んだりできる水場／トイレなどが整備されている方が利用者に優しく、シンボルロードや公共整備として適切のように思う。	けやき通りのシンボルの機能の導入について、貴重なご意見として参考とさせていただきます。
15	P65 毎日訪れたいくなる けやき「健康」通り 日没夕食後の「夜ウオーキング」はメリットが認められており、健康通り整備は市北部住民以外への利益にもなるため継続的な健康づくり空間化に賛成である。駅からある程度の距離については懐中電灯等無しで歩けるよう街灯等の整備をして頂きたい。運動利用者の誘引に繋がり、人通り人目の回復で地域治安にも繋がるのではないかと。標準断面図については、幅4.5mの広い歩道側にはランニング用や自転車用レーンの設置が可能であると思うが、狭い歩道側は歩行者専用とするのか共用か？ランドデザイン上で車、自転車、歩行者等の棲み分けを示して頂き、歩行者安全に十分配慮して頂きたい。狭い側にも自転車が走ると無理な追い越し等で歩行者への接触事故懸念等ないか。十分な道幅の確保ができない箇所については立木にこだわらずに、歩道側への飛び出しがない花壇等を活用し、安全配慮を優先して頂きたい。時代的にけやき通りの名称や、樹種としてのけやき、立ち木にこだわらなくて良いと思う。	「けやき通りランドデザイン」では、道路利用者の安全性の向上やライトアップ等による「楽しめる空間づくり」を目指しております。けやき通りの道路空間や車・自転車・歩行者等の棲み分けについては、貴重なご意見として参考とさせていただきます。
16	p97 進行管理 計画・実行・評価・改善の進行管理 週末日中にけやき通りを歩くとバス・自家用車の通行はあっても、歩道の利用者（歩行者・自転車）がほとんどいない状況との認識である整備により人流回復する試算があるのか。評価材料として現状の通行量調査などは行なわれているのか。	「けやき通りランドデザイン」は、けやき通りのあり方や方向性を示しており、賑わいを創出することで人流の活性化に期待している所でございます。いただいたご意見につきましては、貴重なご参考させていただきます。